

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岩槻小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 基礎基本の定着における個人差が大きい。</p> <p><指導上の課題> 学習展開の中で習得した知識・技能を活用する時間の確保。</p>	⇒ ①基礎基本の時間を朝のモジュールとして実施。【週1回】②指導計画を工夫し、学習した知識・技能を活用する場面の時間を確保する。【単元ごと】③活用場面で協動的な学びを効果的に位置づけ、知識・技能の確かな定着を図る。【単元テスト】④スクールダッシュボード等を活用することで、個に応じた指導の充実に努める。【適宜】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 筋道を立てて説明する力が十分ではない。</p> <p><指導上の課題> 根拠を基に考えたり説明したりする時間の確保。</p>	⇒ ①自力解決、協働、練り上げの時間それぞれに個別最適な学びと協動的な学びの連動による「学び」を取り入れ、自分の考えをきちんと表現できるようにする。【単元ごと】②協動的な学びを効果的に位置づけ、他者の考えに触れ、自分の考えと比較することを通して、確かな学力の定着を図る。【毎時間】③学校課題研修と連動させた授業改善をすることで、主体的な学びを引き出す。【毎時間】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>【国語】学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。特に漢字を正しく書き直すことが難しい。漢字の定着に関しては継続的な課題となっている。習得と活用を一体的に指導し記述式のパフォーマンステスト等で定着を図ることも考えられる。</p> <p>【理科】電流の強さと巻数の関係について正しく捉えられていない。知識の定着に課題がある。関係を表を用いて視覚的に理解することが大切である。算数、特に比例の学習と関連付け教科横断的に指導し知識の定着を図る必要がある。</p>	
思考・判断・表現	<p>【国語】文章だけではなく図や表を用いて考えを表現すること、事実や感想、意見などを区別し文章構成から要旨を把握することに課題がある。言葉の意味理解を丁寧に取り扱い定着を目指し、ICTを活用して文章のまとまりを入れ替え、構成を考える学習に取り組む等の活動を工夫することで論理的な思考を育て、読解力を養うよう取り組んでいく。</p> <p>【算数】問題解決に必要な情報を見つけ、求め方を数や式、言葉を用いて記述することに課題が見られた。国語力の向上を図り、自分の考えを図や式、言葉で記述、根拠を明確にする学習を十分確保することで課題を克服していきたいと考える。</p> <p>【理科】実験結果を振り返り実験方法を検証することに課題がある。実験について見直しを持たせ、実験方法や予想される結果、条件等を考えていく過程で常に振り返る時間を設ける主体的な学習を行うことで課題に対応していきたいと考える。</p>	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	朝のモジュールを活用して基礎基本の定着を図っている。また指導計画に、学習した知識・技能を活用する時間を設定して取り組んでいる。単元テスト前には習熟の時間を確保、個別の時間、教え合いの時間を設定し定着を図っている。	①朝のモジュールを知識の習得に絞らず活用にも着目し、個別最適な学びと連動させる。教科を問わず、自分の課題に取り組む。プリントやデジタル教材、言語活動等、学びの個性化を図り定着の底上げを行う。(毎週)②スクールダッシュボードの活用促進。おはようミーティングの心身の把握(毎日)と授業アンケートで困り感を把握(週1回)、データに基づく支援やアセスメント指導に生かす。
思考・判断・表現	B	①個に応じた指導の根拠を、学習データ、児童の様子、パフォーマンステスト等、多角的観点から明確にして自力解決力を向上させる。(各単元)②学校課題研究と連動、主体的な学びを支える授業改善における3つの取組「個別最適な学び」「効果的なICT活用」「伝え合い」を研究する。(通年)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)